

Hello! FUJISEI

No. 308

生活習慣病は、不健全な生活の積み重ねによる内臓脂肪型肥満が原因となって引き起こされ、適度な運動、バランスの取れた食生活、禁煙を実践することによって予防ができています。

厚生労働省の「平成27年 人口動態統計月報年計（概数）」によると、平成27年の死亡数は129万428人で前年より1万7,424人増加、死亡率（人口千対）は10.3で、前年より0.2ポイント増加しました。

死因順位は、35年連続で悪性新生物（がん）が第1位で、全死亡者に

死因トップは35年連続で“がん”

全体の53%占める 3大生活習慣病

占める割合は28.7%となり、3.5人に1人は悪性新生物で亡くなっています。以下、第2位は心疾患、第4位は脳血管疾患で、これら3大生活習慣病が全死亡者に占める割合は52.6%を占めます。

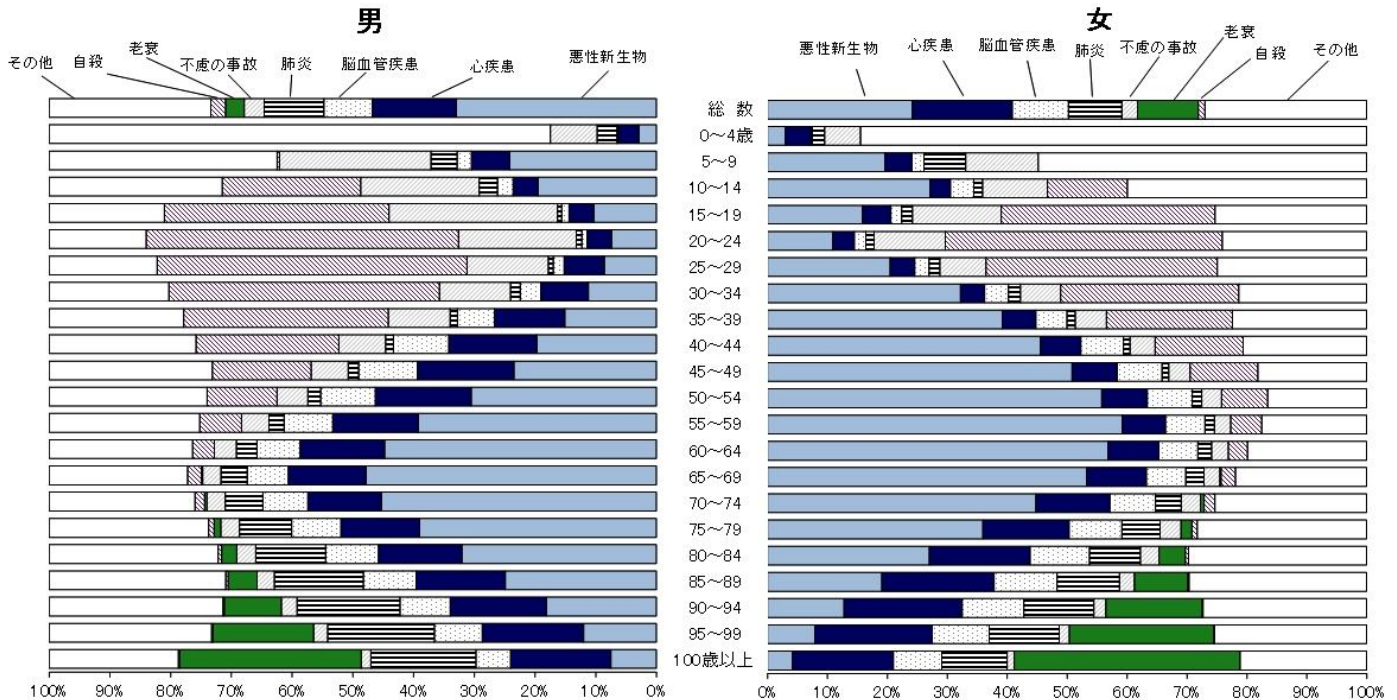
死因を性・年齢（5歳階級）別に構成割合で見ると、5～9歳では悪性新生物及び不慮の事故、10～14歳では悪性新生物及び自殺、15～29歳では自殺及び不慮の事故、30～49歳では悪性新生物及び自殺が多くなっています。年齢が高くなるにしたがって、悪性新生物の占める割合が高くなり、男性では65～69歳、女性では

55～59歳でピークとなります。それ以降は男女とも心疾患、脳血管疾患、肺炎の占める割合が、年齢が高くなるとともに多くなっています。男性では95歳～99歳で肺炎が最も多く、女性では90歳～95歳で心疾患、95～99歳で老衰が最も多くなります。

悪性新生物は、働き盛りから増え始め、中高年でピークとなり、やはり最も怖い病気と言えます。しかし、医療技術の発達により、早期に発見できれば治る可能性はぐんと高くなります。面倒だと言わずに、定期的ながん検診を受けることをお勧めします。

性・年齢階級別にみた主な死因の構成割合

厚生労働省「平成27年 人口動態統計月報年計（概数）」



AIG富士生命保険株式会社

〒105-8633 東京都港区虎ノ門4-3-20
神谷町MTビル